

新生児コース

主たる研修病院 (所属病院)		東京都立大塚病院
連携して研修する病院・施設(予定)		都立小児総合医療センター、都立墨東病院、日本大学板橋病院、都立北療育医療センター 等
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)		令和8年4月時点で、以下のすべての要件を満たしている方 ① 小児科専門医を取得済みか令和8年度に取得予定で、医師歴6年目以上、日本周産期新生児医学会新生児専門医を取得済みか今後取得予定の医師。 ② 将来的に都立病院新生児科での勤務を希望する医師。
コース 責任者	氏名(所属)	大橋 祥子(東京都立大塚病院 新生児科部長)
	資格名	日本小児科学会代議員指導医、日本周産期新生児医学会指導医、日本小児科学会小児科専門医、日本周産期新生児医学会新生児専門医、臨床遺伝専門医、日本新生児成育医学会評議員、東京都身体障害者福祉法第15条指定医、小児慢性特定疾患指定医
	専門分野	新生児医療、超早産児の管理、遺伝性疾患
臨床指導体制		当科には日本周産期新生児医学会新生児専門医を取得済みの常勤医が10名、指導医は2名在籍しており、指導体制は充実している。新生児病棟(NICU、GCU)入院患者数は年間500-600名程度と多く、多くの症例を経験可能である。内科的疾患だけでなく、当院外科や脳外科は新生児疾患に対応可能であるため、多くの新生児外科症例の経験も可能であり、術前術後管理も習得できる。主治医制ではあるがグループ制も併用しており、上席医に相談できる体制が整っている。 学会や研究会への参加も奨励しており、研究研修費による学会参加補助も可能である。 連携施設での研修も可能であり、大学院での学位取得も可能である。
臨床研究	これまで 行ってきた 研究と実績	平成27年度 東京都臨床研究(特別研究) 新生児における感染症マーカーとしての血中プレセプシンの有用性について(配分額200万円) 平成27年度 東京都臨床研究(プロジェクト研究) 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態調査(配分額152.3万円) 平成28年度 都立大塚病院臨床研究 極低出生体重児の頭部MRIを使用した脳容積の検討(配分額20万円) 平成29年度 都立大塚病院臨床研究 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態調査(配分額30万円) 平成29年度 都立大塚病院臨床研究 極低出生体重児の頭部MRIを使用した脳容積の検討(配分額なし) 平成30年度 都立大塚病院臨床研究 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態調査(配分額30万円) 平成30年度 都立大塚病院臨床研究 極低出生体重児の頭部MRIを使用した脳容積の検討(配分額なし) 令和1年度 東京都臨床研究(特別研究) 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の感染予防(配分額200万円)等 令和3-6年度(現在も継続中)多施設共同研究 染色体または遺伝子に変化を伴う疾患群の包括的遺伝子診断システムの構築 令和3年度 都立大塚病院臨床研究 早産児(在胎32週未満)における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態と母乳管理、発達、予後の検討 令和4-6年度 都立大塚病院臨床研究 早産児における腸内細菌叢獲得の過程と影響を与える因子の検討 令和5-6年度 治験受託研究 イブリーフ静注20mg一般使用成績調査 令和7-8年度 都立大塚病院臨床研究 早産児における発達予後と頭部MRI定量画像に関する研究 令和7-8年度 都立大塚病院臨床研究 早産児における哺乳練習開始の評価法導入と予後の検討 令和7-8年度 都立大塚病院臨床研究 超早産児における早期Adiposity Rebound(AR)の頻度とBMI Z-scoreの推移:発達指数および周産期因子との関連 令和8年度 都立大塚病院臨床研究 超早産児の学童期の体組成と体格:周産期因子との関連
	今後行う 研究と 研究体制	・超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症やウイルス量の推移、その予後などについて検討し、2024年第60回日本周産期新生児医学会学術集会で発表した。 ・超早産児の短期予後、長期予後についての調査を行う。 ・未熟児動脈管開存症に対するイブプロフェンとインドメタシンの比較検討 ・SGA児の胎内から小児期、成人期にかけての成長の検討・修正1歳での超低出生体重児の頭部MRIについての検討 ・外国人から出生したELBWIsの検討 ・こころの発達外来を受診した早産児の検討 など、学会発表、論文を予定している。
研修項目		研修期間は3年間で都立大塚病院に所属する。3年間のうち1年目は基礎的な新生児医療を確かなものにする。2年目は新生児医療の中で特に興味を持った分野に関して連携する他施設等で研修し、所属施設での研修が不十分な点について補完し、他施設の高度先進医療を習得をする。3年目は、都立大塚病院において経験症例数を増やすとともに、ジュニアレジデントやシニアレジデントの教育・指導、追跡外来の担当、臨床研究のまとめなどを行う。また新生児専門医未取得者は試験に向けての準備を行う。 ①指導医の指導の下に多数の症例経験を蓄積する。 ②新生児科内だけでなく他科の医師や多職種と良好なコミュニケーションを取りチーム医療を実践できる。 ③病児家族との良好な関係を築く。 ④臨床経験からの疑問点について臨床研究を立案し実践する。 ⑤レジデント医師や学生、看護師の指導を行う。 ⑥業績目標として、3年間に査読のある学会誌への論文発表を最低1篇および学会発表を最低2回は行う。
研修内容・達成目標		研修症例数の最低ライン 1) ハイリスク分娩の立会い 20例以上 2) 健常新生児管理例数 50例以上 3) 超低出生体重児受け持ち数 10例以上 4) 極低出生体重児受け持ち数 20例以上 5) 中枢神経疾患(新生児痙攣など) 5例以上 6) 重症感染症(敗血症、髄膜炎など) 3例以上 7) 循環器疾患(PDA単独をのぞく) 5例以上 8) 新生児黄疸の管理 5例以上 9) 血液凝固異常(新生児DICなど) 3例以上 10) 先天異常(染色体異常など) 3例以上 11) 小児外科疾患 5例以上 研修手技の最低ライン 1) 超音波を用いた診断技術 20例以上 2) 気管内挿管 20例以上 3) 呼吸管理症例(経鼻持続陽圧呼吸葉のぞく) 20例以上 4) 交換輸血 2例以上 5) 胸腔穿刺 2例以上 経験症例数の最低ライン 1) 剖検数 2例以上 2) 極低出生体重児のフォローアップ 3例以上 3) ハイリスク新生児の施設間搬送数 20例以上
コース内容に関する 問合せ先		大橋 祥子(東京都立大塚病院 新生児科部長) ☎03-3941-3211(代表)